

第3回



高浜市の未来を描く市民会議 「高浜市の姿を知る」【報告】



日時 平成22年2月10日(水)
午後7時～(分科会ごとに解散)
場所 高浜市役所 第2会議室

1. 高浜市の人口はこれからどうなるのか？【資料1】

説明者：コンサルタント会社（ランドブレイン(株)名古屋事務所・岩田所長）

- ・ 社会状況の変化により見通しは厳しいが、これまでの動向を踏まえて予測を出している。
- ・ 「1. 高浜市の人口の推移」
30年間で約14,000人増加。世帯数は2倍となっている。特に平成12年～22年の10年間で約7,000人が増加しており、伸びが著しい。
- ・ 「2. 人口増加の要因」
社会増（転入・転出の差）
→転入が多く、人口が伸びている。しかし、ここ1年ぐらいの間に経済状況の変化により転出者も増えており、転入・転出の差は縮まっている
自然増（出生・死亡の差）
→出生数がわずかに増加。
合計特殊出生率は1.6程度でほぼ横ばい。全国の傾向と比べると高い。
- ・ 「3. 外国人人口の推移」
平成20年頃までは増加。しかし、経済状況の変化により、昨年からは減少の一途。愛知県平均は3%程度。高浜市は比較的割合が高い。
- ・ 「4. 高浜市の将来人口の見通し」
「コーホート要因法」という方法により推計。高浜市はまだ少し人口が伸びる予想。総合計画目標年次（H33）で約48,000人と推測。
- ・ 「5. 将来の年齢3区分別人口の見通し」
平成33年には、高齢化が進み、子どもは減る。
高齢化率は、全国平均では約30%と予測されており、それと比べると高齢化の進行はゆるやか。
- ・ 「6. 将来の年齢別人口の見通し」
現時点では30代後半が多い。10年後には40代後半が多い。（団塊ジュニアがピーク）
- ・ 「7. 将来の小学校区別人口の見通し」
吉浜小学校区は、宅地開発が進み、増加予想。翼小学校区も増加予想。
高取小学校区は、ほぼ横ばい。
高浜小学校区・港小学校区へ減少予想。

- ・ まとめ（人口とまちづくりの関係）
 - ・ 人口が減ると税収が減る。消費も減り、モノが売れなくなる。商店街へ影響を及ぼし、中心地が空洞化する。
 - ・ 現在の 45,000 人から予想の 48,000 人まで、増加分 3,000 人の約 6 割は仕事を持つ世代。人口を増やすためには働く場や住宅確保などの雇用や産業・定住対策のほか、いかに安心して子どもを産み、育てられるかといった環境整備、福祉の充実なども考えていく必要がある。
 - ・ 人口減少の自治体では「婚活」も行政課題となっている。

2. 高浜市の財政状況【資料2】

説明者：行財政運営分科会メンバー（岡島正明・榊原雅彦）

- ・ 財政に関わる情報共有の第一歩であるのご理解いただきたい。
- ・ 「財政状況の概要」
 - 一般会計：市税をもとに、道路や福祉など市の基本施策を実施
 - 特別会計：特定の歳入を特定の事業に充てる。
 - （例）介護保険、国民健康保険、公共下水道
 - 企業会計：独立採算制。（例）水道
 - 財政力指数：数値が高いほど自主財源が多いことを意味する。
 - 1.00 を超える＝自力で運営できる。（地方交付税不交付団体）
 - 愛知県内では 30 位以内に 13 市がランクインしている。
 - （例）刈谷市＝1 位、安城市＝3 位、碧南市＝10 位、知立市＝23 位
 - 近隣市と比較すると見劣りするが、全国的には高浜市は上位にある。
- ・ 「一般会計の決算額と市債（借金）の推移」
 - 16 年度の決算額が高いのは、小・中学校の耐震補強やさわたり夢広場整備による。
- ・ 性質別の推移
 - 投資的経費→19 年度は高浜エコハウスの建設あり。
 - 物件費→アウトソーシングの推進等による
- ・ 市全体の市債（借金）の状況
 - 将来世代にツケを回さぬよう人件費削減やアウトソーシングの推進を進めてきた。
- ・ 市町村財政比較
 - 類似団体：人口・面積等、規模が同じくらいの自治体
 - （全国で 18 市。県内では岩倉市が該当）
 - 財政力→全国の平均よりも財政力は良いという結果〔19〕
 - 財政構造の弾力性（経常収支比率）→比率が高いほど財政構造が硬直化していることを意味する。比率が低ければ、自由に使えるお金の割合が高い。

定員管理の適正度→全国・愛知県内の平均と比較しても2人程度少ない。今後
も更なる業務改善を推進していく。

給与水準の適正度（ラスパイレス指数）→国家公務員給与を100とした場合
の市職員給与の比率。高浜市では能
力評価・業績評価を導入し、昇給に
反映させている。

・ まとめ

税収が大きく落ち込むが、サービス等の低下をさせないよう、市民目線で事業
の見直しをし、持続的な行政基盤を目指していきたい。

19年度決算額を用いて説明をしたのは、他自治体との比較を行うため。（最新
情報は今年3月に発表されるため、今回の説明には間に合わなかった。）

★ 中川幾郎先生（高浜市総合計画審議会会長・帝塚山大学大学院教授）よりコメント

- ・ 今日の話聞いていて、高浜市はこれまで随分頑張ってきたということがわかった。しっかりしたデータがあり、内容にも心が明るくなった。現在、自分がアドバイザーとして関わっている自治体のうち4つは再建団体転落が確実となっている。それに比べれば高浜市は見通しが明るい。
- ・ ただし、油断は禁物。人口ピラミッドが中ぶくれになっている。つまり、何年後かにそこが高齢者層となってピラミッドの上の方にいき、下の方は先細りになっていくということ。しかし、全国的な傾向から見るとゆるやかなので、時間が稼げるはず。財政面でもこれまでの努力があり、強みになる。
- ・ 本日の説明にあった、人口推計や財政推移のデータを参考に、「あれも、これも」ではなく、どういった政策に重点を置くか、メリハリを持たせるかという観点で考えていただきたい。「サステナブル・デベロップメント」という言葉は、「持続可能な発展」と通常訳されているが、本来の意味は「支えあうことが可能な社会」という意味である。若者が中高年を支え、中高年が子どもたちを支える。あるいは、地域で支える。横で、縦で支える。資源がここにはあると確信した。データをもとに10年後をイメージして、模索して欲しい。
- ・ 全国平均よりは良好なので、これからの施策に色々なアイデアを盛り込む余地、みなさんの意思を盛り込む余裕が、まだ感じられる。みなさんの元気が反映できる計画づくりを期待している。

— 終了後 分科会ごとに打合せ —

3 お知らせ

<第4回> 日時:3月4日(木)午後7時～ 場所:中央公民館 中会議室(3階)
「10年後の高浜市を想像・創造しよう」